

南河内第二中学校区

令和5年度 小中一貫教育まとめ(令和4～5年度 2年目)

《長期ビジョン》

夢と希望をもち、たくましく未来を拓く児童生徒の育成

【目指す子ども像】

- 〈まなび〉主体的に考え、学び合いを通して互いに高め合える子ども
- 〈こころ〉思いやりの心をもち、自他を大切にできる子ども
- 〈からだ〉心身の健康に関心をもち、体力向上に励む子ども
- 〈ちいき〉社会に貢献し、地域に主体的に参画しようとする子ども

【実践研究課題】

(伝える力の育成)

教育活動全体を通して、考えや気持ちを理解し、互いに認め合える子どもを育成します。

各部会の取組

<授業研究チーム・国語部会>

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習意欲が高い。学習・生活両面で安定している児童生徒が多いが個別指導が必要な児童生徒もあり、学習に限らず学級経営にも工夫が必要である。興味・関心のあることについては積極的に発言できるが、集団や他の意見に対しては関心がやや薄く、話し合いながら課題を解決したり、学びを深め合ったりする力がやや低い。

【部会のねらい】

主体的に考え、考えたことを他者に分かりやすく伝えたり、他者の考えを受容しながら聞いたりすることにより、更に自分の考えを広げ深められるような「豊かな対話力」を育成する。また、「豊かな対話力」の土台となる「聴き合う力」の育成を目指す。

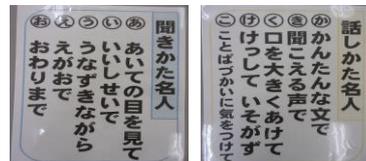
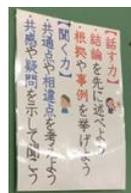
視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	①「豊かな対話力」の土台となり、「聞き合う力」を育成するための実践 ②「聴き合う力」を育成する、教師のコーディネート力向上のための情報交換 ③小中学校相互の授業参観及び授業研究会への参加
成果	①小学校では、「話し方・聞き方名人」、中学校では「話す力」「聞く力」についての掲示物を活用し、すべての教科・あらゆる場面で話すこと・聞くことについて意識させた。掲示物を使って教師だけが指導するのではなく、児童生徒同士も掲示物を見て声を掛け合う姿が見られ、分かりやすく話すことや、受容しながら聞く態度が少しずつ身に付いてきた。 ②ウインバード上の掲示板を活用して各校の実践の様子を写真やデータで共有し、情報交換しながら自校の指導に生かすことができた。 ③S&Uなどの研修会において互いの授業を参観したり、各校で課題解決のために常時実践している内容について研修したりして、研修で得た成果や課題を指導に生かすことができた。
課題	・「話し方・聞き方名人」を意識することで、どのような学習の効果(学びが深まった、意欲が高まったなど)が得られるのかを児童生徒自身が実感できるような活用や指導の仕方を工夫する。 ・発達段階に応じて、「話し方・聞き方」「話す力」「聞く力」を焦点化して指導したり、児童自身が自分たちの言葉に置き換えたりしていくことで、身に付けさせたい。



5年生「聞いて、考えを深めよう」自分たちの話し合いの様子をタブレットで確認している。(祇園小)

中学校の「話す力」「聞く力」



全校で取り組んだ「話し方名人」「聞き方名人」(緑小)